



近年、各地で大きな災害が起きており、地域全体で防災・減災の意識づくりに取り組むことが重要視され、防災・減災対策への女性の参画が必要とされています。

今年の男女共同参画特集号『はばたき』では、「防災における男女共同参画」をテーマとし、本年度より地域消防団での活動が始まった女性消防団員の方々と、自主防災会への女性参画や自助・共助の意識啓発に取り組む「つる防災ネットワーク」の方々と開催した意見交換会を特集します。

聞き手：男女共同参画推進委員 加藤委員、小林委員、中村委員

女性消防団員の皆さん



**黒部 奈美さん**  
東柱分団所属。約3年前に都留市へ移住し、女性消防隊の募集ポスターを見て、消防隊に加入。



**落合 真美さん**  
谷村第二分団所属。女性消防隊として加入し、現在は地域の消防団所属として活動している。



**小宮山 みゆきさん**  
市職員で禾生分団所属。平成25年に女性消防隊が組織された際に、リーダーを務める。

つる防災ネットワークの皆さん



**清水 絹代さん**  
平成29年に『つる防災ネットワーク』を立ち上げ、防災・減災活動への女性参画の重要性を伝えている。



**賀川 一枝さん**  
清水さんからの声かけを受けて、団体の設立から移住者の視点を持ちながら活動に関わっている。



**谷内 佑季さん**  
子育て支援団体「親子のえがお研究クラブ」の代表も務め、子育て世代の視点から防災活動に取り組む。

※対談時の敬称は省略させていただきます。

活動を始めたきっかけ

**加藤** 消防団に入ったきっかけと、入ったことへの周囲の反応を教えてください。

**黒部** 小学生からボランティア活動に参加していたので、大人になっても何かしたいと思っていました。災害が頻繁に起きているので、防災について知識をつけ、地域の人と助け合えたらと思って、消防団が浮かびました。

友人には驚かれましたし、家族には「やりたいならいいけど危なくないの？」と心配はされますね。

**落合** 都留市が平成25年のポンプ操法の全国大会に出場する際、女性消防隊の募集があり、その時に友人に声をかけてもらったのがきっかけです。消防団に入って、水や食べ物等の常備は意識するようになりました。家族も心配していますが、「自分の生活や体も大事にしながら市に貢献できるならいいね」と応援してくれています。

**小宮山** 私もきっかけは落合さんと同じです。周りには「あなたに合っているよ」と言われましたね。

**加藤** つる防災ネットワークを設立したきっかけは何でしたか。  
**清水** 平成29年度に、市が策定した「都留市防災・減災対策推進計画」の中で、女性リーダーの養成などが目

標になっています。

その計画を策定する際に、市役所で防災を担当する危機管理担当の職員から相談を受けました。

以前から「自主防災会を自治会と別組織にして、女性が参画できるように」と言っていたので、市民と行政が協働で取り組むべきだと思い、賀川さんたちと一緒にこの団体を立ち上げました。

これまでの活動

**小林** これまでの活動について教えてください。

**賀川** 月1回ミーティングをしています。今年2月には市の危機管理担当と避難行動訓練ゲーム「E-VAG」※の研修会を合同開催し、多くの方に参加していただきました。

私たちは、防災における「共助」に取り組もうと考えています。地域コミュニティが弱くなっている今こそ、「共助」の部分を強めていきたいです。

**清水** 現在、全自主防災会に対して防災に関するアンケートをお願いしています。自主防災会を運営していく上でわからない部分など、協力して考えていけたらと思います。

**小林** 私も知らなかったことばかりなので、この活動を地域のみなさんに広く知っていただきたいです。

消防団の方は、これまでどんな活動に参加されましたか。

**黒部** まだ参加し始めたばかりですが、月1回の部長会議や防災訓練、放水訓練などに参加して、どんな活動があるのか学んでいるところです。

**落合** 女性消防隊としての活動ですが、ボランティアまつりでの火災報知機の啓発や宝保育所での防火パレードなど、啓発活動が中心ですね。

**小宮山** 活動を通じて感じるやりがいや女性特有の苦労はありますか。  
**落合** 女性消防団員の認知度はまだ低いと思います。でも、女性も関わること、これまでにない新しい活動ができたらいいですね。

**小宮山** 女性が男性と全部同じ活動というのはハードルが高いですが、女性でも活躍できる部分があります。啓発活動を通して一般の方に知ってもらうことで「私たちにも協力できるかな」と感じてもらえれば、私たちが消防団に入った価値があるかなと思います。

※「E-VAG」(イーバグ)とは：避難行動を疑似体験する「体験・参加型」の避難行動訓練ゲーム(Evacuation Activity Game)。

災害は自分事

**小林** つる防災ネットワークの活動を通して、どんなことを市民の方に知ってほしいですか。

**清水** 地元の災害に関心を持ち、「災害は他人事ではなく自分事」をキーワードに、地域の特徴を把握し、災害時に取るべき行動や災害弱者の対応について、みなさんに自分事として考えてもらいたいです。

**賀川** 自治会と自主防災会が一緒になっっている地域もありますが、人口減少で役員のなり手も減っていて、困っている自治会も多いと思います。この課題に、防災というテーマから取り組めると考えています。

最近では、自治会に入っていない人もいますよね。地域組織に属していない人もすくい上げられる仕組みが、これから必要だと感じています。

**黒部** 私も、移住してきて地域のことが全然わからなかったのが、近所を歩いて自分の住む地域を知るようになっていきます。

**加藤** 自分が住む地域と置かれている現状を知ることが大切ですね。



### 自分の身を守るために 身近なことから

**中村** 消防団に入ってから、日常生活で気を付けるようになったことはありますか。

**黒部** 災害が各地で起きる中、夫は会社勤めで、災害時に帰宅困難になつたら家に私一人になってしまふので、「このままじゃ生き残れないかも」という不安がありました。それで、防災の知識や自分の身を守る術を学んでいこうと思いました。

**落合** 東日本大震災の後は、水や食べ物などを用意した人も多かつたと思うんですけど、今は意識が薄れてきていますよね。防災意識は薄れがちですが、普段の備えを大事にしないといけませんね。

**中村** 防災グッズは賞味期限の長いものを用意して、年2回見直すだけでも十分なので、それを続けてほしいです。

**小宮山** 私は、懐中電灯やラジオを準備していたのに、災害時にすぐ見つからなくて苦労しました。その経験があるので、今はすぐわかる場所に置いていきます。

**中村** 防災意識が高まった証ですね。つる防災ネットワークの活動に参加した地域の方からは、災害についてどんな意見が出ましたか。

**賀川** ある高齢の方の「私は何もできな

きないけど、他人の迷惑にならないようにしたい」という感想が印象に残っています。災害弱者の方は自身の狭い思いをされているかもしれませんが、「自助を強めることは自分にもできる」と気づいてくれる人を増やしたいですね。

**加藤** 今後取り組みたいことや目標はありますか。

**黒部** 同じ分団の方から「地域の方に消防団のことを理解してもらえたらいいな」というお話を聞きました。女性も活躍できることを伝えて、地域の皆さんに身近に感じてもらうえたら嬉しいですね。

**落合** 避難行動訓練は、小学校などで私たちができそうですね。災害時に行動できるように備えるためにも、ぜひやりたいです。

**谷内** 私のように子どもがいると、みなさん一生懸命やっているのに、子どもが一緒だと迷惑かも…という気持ちがあつて、会議や避難訓練は遠慮してしまいます。赤ちゃんや小さい子どものいる方でも気軽に参加できる取り組みができるといいですね。

**清水** 小さい子どもがいるお母さんとか、地域にどんな人が住んでいるかを知り、地域全体で情報を共有す

が得られましたね。

**中村** 少子化と同時に若者世代も減っているので、女性の活躍がこれまで以上に重要になってくると思います。

今後の皆様のご活躍を期待しています。本日はありがとうございました。

**黒部** 私は、地域との繋がりがなく中々自分から消防団に入っていきました。似た立場の方はどうやって不安を解消できるかなって気持ちがあります。

**谷内** 今、防災に対する意識が高まっているので、この意識を活かして、気軽に参加できるイベントをしたいです。また、子育て中の人向けの「防災・減災マニュアル冊子」も作成したいと考えています。

**中村** タイミングは大事ですね。イベントであれば地域を問わずいろんな人が参加しやすく、団体も連携しやすいと思います。

**清水** 各地で災害が起きるたびに学ぶ事がたくさんあります。避難所へ行くだけが避難ではないので、自分の地域で災害が起きた時のことを考えて自助・共助ができるように意識を変えていきましょう。



■参加された方からは災害や防災に限らず、地域コミュニティや男女共同参画の重要性など、大変参考になるお話を聞くことができました。

### 防災も楽しみながら 取り組み

**加藤** 今後取り組みたいことや目標はありますか。

**黒部** 同じ分団の方から「地域の方に消防団のことを理解してもらえたらいいな」というお話を聞きました。女性も活躍できることを伝えて、地域の皆さんに身近に感じてもらうえたら嬉しいですね。

**落合** 避難行動訓練は、小学校などで私たちができそうですね。災害時に行動できるように備えるためにも、ぜひやりたいです。

**谷内** 私のように子どもがいると、みなさん一生懸命やっているのに、子どもが一緒だと迷惑かも…という気持ちがあつて、会議や避難訓練は遠慮してしまいます。赤ちゃんや小さい子どものいる方でも気軽に参加できる取り組みができるといいですね。

**清水** 小さい子どもがいるお母さんとか、地域にどんな人が住んでいるかを知り、地域全体で情報を共有す

が得られましたね。

**中村** 少子化と同時に若者世代も減っているので、女性の活躍がこれまで以上に重要になってくると思います。

今後の皆様のご活躍を期待しています。本日はありがとうございました。

## なぜ、防災に「女性の視点」が必要なのか！

災害というと「男性の分野」と思われがちですが、全国での大規模地震が発生した被災地では、男性は早い段階で職場に復帰する一方、女性に対しては「不便な生活環境の下での家事や育児などの家庭的責任に対する負担の集中」や「避難所での女性への配慮の欠如」などの多くの問題が上げられ、このような事態が起こらないよう、男女双方の視点を踏まえた防災対策への取り組みが求められています。

### ◆本市の「女性の視点」を踏まえた防災対策の主な取り組み(女性へのニーズ対応)



■避難所でのプライベート空間の確保  
避難所での女性用更衣室や授乳室などの確保に必要な備品の整備を進めています。



■防災訓練への参加・参画  
女性の積極的な参加を促し、女性の利用しやすい避難所運営を進めています。



■意見交換会・防災研修会の実施  
女性の皆さまと意見交換や研修会を行い、「女性の意見」の反映に努めています。

### ◆消防団でも、女性が活躍できる場面があります！

これまで男性のイメージが強かった消防団ですが、近年女性の参画が進んできています。活動は幅広く、男女問わず活躍できる場面がたくさんあります。皆さんも、地域を守る身近な存在「消防団」で活躍してみませんか？

**問合せ先** 防災に関すること 市役所 総務課 危機管理担当 ☎(43)1111(内線208・209)  
消防団に関すること 都留市消防本部 消防課 ☎(43)2341

### 性別に関係なく、 みんなで地域を守る

**小林** 先輩消防団員として地域の皆さんへメッセージをお願いします。

**黒部** 消防団は、男性だけではなく、女性にもできることがたくさんあると思います！

**落合** 「女性も地域で活躍できる」って知ってもらえたら嬉しいですね。

**加藤** 防災に関わる主体が連携して、得意分野を活かしながら活動が広がると思います。

**賀川** でも、どんなことも楽しくないと続かないので、サブイバルキャンプのようなイベントなどで、楽しみながらみんなで防災力を高めることが今後の目標です。

**中村** 様々な防災の団体が垣根を超えて連携するために、どんな取り組みが必要でしょうか。

**落合** 今日の意見交換でも色々発見がありましたし、この話を私が友人などに話すとさらに広がりますよね。そういう情報の交換が大事かなって思います。

**黒部** 「自助・共助・公助」のバランスがうまくできるように、団体の枠にとらわれず皆で考えていけるといいと思います。

**賀川** 女性は普段からネットワークづくりが得意ですね。炊き出しができる人とか、災害時に活躍できる様々な人材が地域にいて、それを知っておけば、災害時にそのネットワークが活躍してくるんじゃないでしょうか。



■平成29年度に開催した「女性のための地域防災研修会」には多くの市民の方に参加いただきました。